

- 那須 JICA ブラジル所長、中尾テルモ代表取締役会長、齋藤湘南鎌倉総合病院副院長、サンパウロのインスティトゥート・パザネゼ・デ・カルジオリジカの心臓治療のチーフである Dr. Abizaid 氏、全ての参加者の皆様。
- 先ず、初めに JICA とテルモの共催で、TRI に関するシンポジウムがこのように盛大に開催されることに祝意を申し上げます。本日は私自身の実体験も踏まえ、ブラジルにおける TRI 普及への期待について一言述べさせていただきます。
- 日本政府は、世界の医療事情及び保健環境の改善のために、世界各国において様々な医療分野の国際協力を進めています。その一環として日本の優れた医療ノウハウ、医療技術・機器を諸外国に紹介する事業にも取り組んでいます。
- ブラジルとの間では、昨年安倍総理が訪伯した際に、日本の厚生労働省とブラジルの保健省との間で医療分野の協力について覚書が締結されました。その覚書に基づき、両国間で幾つかの医療分野の協力が始まっています。
- 本件は、その中の、JICA を通じた官民連携事業。具体的には、JICA と民間企業が協力して、外国に日本のよい技術を紹介する施策の一環として実施されています。テルモの TRI トレーニング施策は、多くの申請案件の中から、日本国内の厳しい審査を経て選ばれた最優良案件の一つです。
- TRI は、虚血性心疾患の治療において、心臓バイパス手術等をせず、カテーテルを用いて血管内治療を行うものであり、身体への負担が少なく入院期間が短くて済むため、患者さんや医師、そして治療費の全てに優しいものがあります。
- 私自身、5 年前に虚血性心疾患を患い、救急車で病院に運び込まれた経験があります。その際、手首からカテーテルを入れ、ステントをいれる手術を受けました。手術時間は約一時間、入院は 3 日のみでした。退院後は、元気に仕事に復帰できました。身をもって TRI の有用性と恩恵を享受した一人であります。TRI に感謝しております。

- 日本では病気による死亡原因の第1位は「がん」です。ブラジルでは心血管疾患が第1位であり、第2位のがんと比較して2倍程度多いと聞いています。他方、ブラジルにおける TRI の利用率は 50%以下であり、改善の余地は多いとも聞いています。ブラジルにおいて TRI が一層普及し、より多くの人が救われ、医療費の削減に貢献することを心より期待します。

- 最後に、本日のセミナーが、湘南鎌倉病院の齋藤先生、ブラジル人の先生方、JICA、テルモの皆様全員にとって有意義なセミナーになることを祈念し、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

2015年11月27日 特命全権大使 梅田邦夫